

「自然との対話」。この大切さを、スポーツ

を通じて子どもたちに伝えていきたい。



特定非営利活動法人 グローバル・スポーツ・アライアンス

理事 松岡修造氏

松岡 修造

世界を舞台に活躍したテニスプレーヤー。92年のKALカップで日本男子選手として初めてATPツアー優勝。95年ウインブルドンでベスト8。現役を退いた後、ジュニアの育成とテニス界の活性化プロジェク「修造チャレンジ」を設立。GSA理事。



——松岡さんが「スポーツ」と「環境問題」とを結びつけて考えるようになったのはなぜでしょうか。

僕が子どもの頃、トレーニングをしていたテニスコートは、山の上にありました。いくら大声を出してもかまわない環境で、光や風、寒さや暑さを肌でじかに感じながら練習に打ち込んできました。テニスとい

うスポーツを通じていつも自然と対話してきたことで、表現力・想像力などが養われ、自分の感性が形作られたと思っています。最近では室内テニスコートが増えていますが、インドア・テニス中心の生活だったら、きっと今の僕はいなかったでしょう。

また、現役の頃北京で開催された国際大会で、試合中に急に息苦しくなって、棄権せざるを得なくなってしまう経験があります。

その大会では、三十二人の選手のうち、五人の選手が急な体調不良を訴えリタイア。原因は光化学スモッグによる呼吸困難でした。

当時は、こういう劣悪な環境の下でもテニスができるように、自分の体質をどう変えればいいのか悩みましたが、引退間際になって、自分の体を変えるのではなく、自然環境をスポーツができる状態に変えて行くことが本場の解決に結びつくのではないかと考えたのです。

——環境破壊が進むと、スポーツもできなくなってしまうんですね……。ほかにもこうした危機感を感じにいられたことはありますか？

IOC（国際オリンピック委員会）の環境委員会で、このまま地球環境が悪化し続けると、数年後のオリンピックは宇宙で開催するしかない、という警告映像を見せられたことがあります。遠い将来ではなく、数年後の話だということです。正直冗談として笑い飛ばすことはとてもできませんでした。

実際に、スポーツキャスターとしてトリノオリンピックに赴いて、その危機感を切実に感じました。おそらく観客は気づかなかったでしょうが、ジャンプ台もクロスカントリーも、全ての雪が人工雪だったんです。選手は相当ショックだったことでしょう。自然の中でスポーツができないという状況が現実起こったのですから。

だからこそ、僕たちスポーツ選手は自然

環境についてもっと真剣に考えなければならない義務があるのかもしれませんが、それに、世界のトップアスリートが発するメッセージは、短い言葉でも人々の心を動かすパワーがあります。自分たちのフィールドである自然環境を守るためのメッセージとしての役割を、スポーツ選手も求められているのではないかと思います。



スポーツを通じて環境保全に取り組む特定非営利活動法人グローバル・スポーツ・アライアンス（略称GSA）は、平成十八年度より地球環境基金の助成を受けて、より多くのスポーツ愛好家の参加を目指して活動しています。この団体の理事で、プロテニスプレイヤーとして世界を舞台に活躍された松岡修造さんに、「スポーツ」、「環境」、「子ども」をテーマに、ご自身の体験や想い、伝えたいことなどについてお話を伺いました。

——松岡さんが理事を務めるNPOグローバル・スポーツ・アライアンスの「エコフラッグ・ムーブメント」は、プロ・アマ問わず、世界中のスポーツ愛好家に広がっているようですが、何が共感と呼んでいるのでしょうか。

「エコフラッグ・ムーブメント」は、スポーツマンシップを代表する「フェアプレー」に加えて、毎日の生活の中で自然を守り、省エネ・省資源を心がける「エコプレー」を、スポーツを愛する全ての人たちに呼びかける運動です。運動のシンボル・フラッグ（エコフラッグ）から、「緑」や「きれいな空気」の中でのびのびとスポーツしている姿がイメージできるシンプルさが良いのだと思います。

Jリーグの選手入場や小学校の運動会での掲揚など、エコフラッグ・ムーブメントの裾野はどんどん広がっています。

——松岡さんは子どもたちに対するテニスの育成指導に力を入れていらっしゃるようですが、子どもとの触れ合いの中で大切にしていることはありますか？

僕の主催するテニスのジュニア合宿では、開催地はできるだけ自然豊かな場所を選ぶようにしています。というのも、近頃のスポーツは室内で行われる機会が増え、スポ

ーツをする環境がより楽な方向へ流れていることに危機感を感じているからです。インドア・テニスは天候に左右されないのので確かに条件は良いのですが、スポーツにとって大切な自然環境との対話が抜け落ちていくと思うのです。自然の中で転んだり失敗したりしながら、問題をひとつずつクリアしていく過程で、表現力を培い、尚且つ自分の殻を破っていくことができると思っています。



——松岡さんのテニス合宿に参加した子どもたちが学ぶのは、テニスの技術だけではないのです。最後に、未来の地球環境を担う子どもたちに向けてメッセージをお願いします。

僕が普段子どもたちに言っているのは、「良心に従おう」ということです。自然の中でゴミを捨てれば心が痛むし、ゴミを拾えば逆にいい気持ちになる。どういうふうに行動したらいいのか自分の心に聞いてみようよ、と。

以前テレビ番組の企画で、子どもたちと一緒に本栖湖でゴミ拾いをしたり、生物の学習をして自然について考えるといった企画がありました。参加した子どもたちの感想を聞いてみると、「大人は許せない、こんなキレイな場所にゴミを捨てるなんて・・・」と泣きながら僕に訴えてきたのです。僕たち大人は子どもに「環境についてもっと考えなさい、環境を大事にしない」と正論で諭そうとしますが、本当は子どもたちの方が感受性が豊かで、環境についての思いが強い気がしました。むしろ、僕たち大人がもっと自然について考え、しっかりした行動をとらなければならないのかもしれないですね。

子どもたちに環境問題について考えてもらうためには、大人からのお仕着せの言葉は要らないんじゃないでしょうか。

言葉ではなく、実際に子どもを自然豊かな場所へ連れて行って、自然からもらえるものを肌で感じてもらうことが一番だと思います。

フェアプレーとエコプレーの実践、これが真のスポーツマンシップだ！

GSAは未来世代に健全な環境を残したいと考えるスポーツ愛好家の世界的ネットワークで、1999年に設立され、安心してスポーツが楽しめる空気のきれいな社会づくりを目指した世界的運動「エコフラッグ・ムーブメント」を推進しています。

「エコフラッグ・ムーブメント」に参加しよう！

世界24カ国、65のGSAチームが活動中

地域の拠点として、様々なスポーツイベント等で「エコプレー」を実践する「GSAチーム」を募集しています。

「エコフラッグ」は、国連環境計画（UNEP）も認定した「エコプレー」のシンボルです。



学校の教室の騒音を緩和するために、テニスボールをリユースする取り組みなども行っています。



写真提供
JAPANビーチサッカーネットワーク(JBSN)

特定非営利活動法人グローバル・スポーツ・アライアンス (GSA)
〒166-0013 東京都渋谷区渋谷1-1-11 TEL: 03-6419-2900

www.gsa.or.jp